

# 登別中学校 校適正配置に関する地区別検討委員会

## 第2回まちづくり部会 会議次第

日時 令和4年5月19日（木）13時30分

場所 登別市婦人センター講堂（2F）

### 1. 開会

### 2. 資料説明

登別市総務部企画調整グループ

「登別中学校区の『まちづくり』について」

### 3. 意見交換

（1）登別中学校区のまちづくりにおける中学校の役割や統合

による影響などについて

### 4. その他

### 5. 閉会

# 登別中学校区の「まちづくり」について

～地区別検討委員会まちづくり部会資料～

令和4年5月 登別市



# 『まちづくり』とは

学校・家庭・  
地域と連携し  
心豊かな人  
間性を育む

自然を生かし  
た潤いのある  
まちづくり

市民の個性  
ある文化活  
動と文化を育  
む

暮らしやすい  
快適なまちづ  
くり

安全に安心し  
て暮らせるま  
ちづくり

協働のまちづ  
くりの推進

活力に満ちた  
魅力ある産  
業をつくる

生涯を通じて  
健康に暮らせ  
るまちづくり

道路交通網  
の整ったまち  
づくり

交流によるま  
ちづくりの  
推進

自然を活かし  
た産業の育  
成

安心して子ど  
もを生み育て  
られるまちづ  
くり

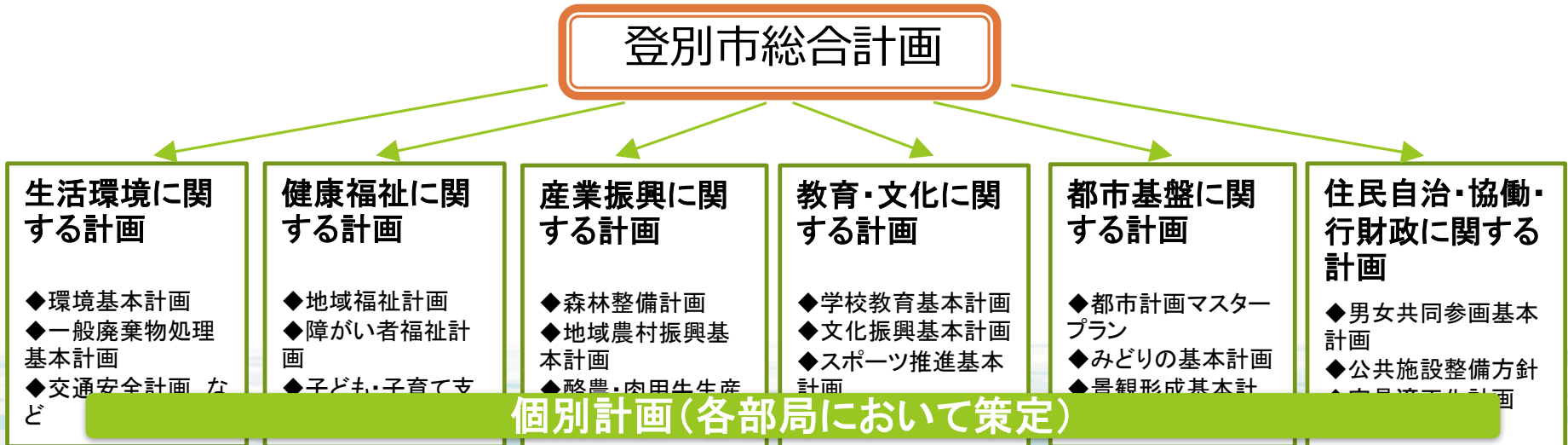


# 『まちづくり』の基礎となる計画は

## 登別市総合計画

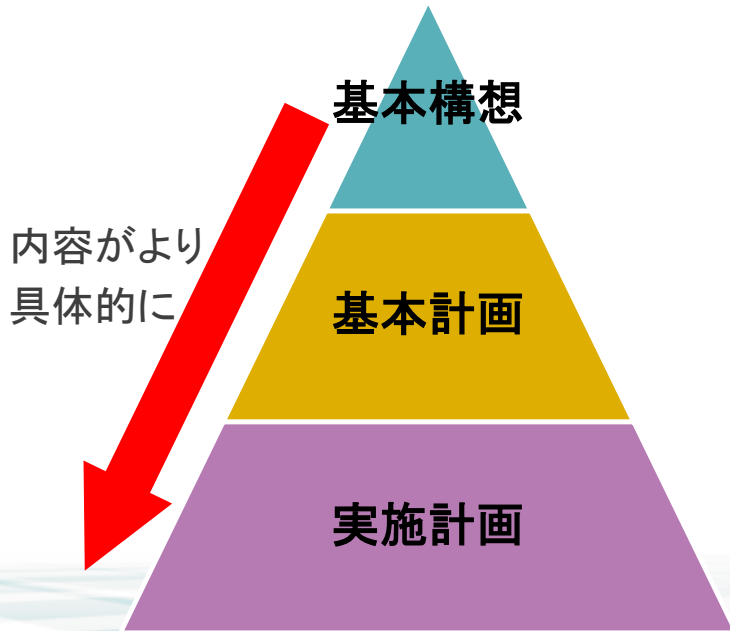
私たちが住む「まち」をどんな「まち」にするのか、**まちの将来像**を示し、そのために**だれが、どんなことをしていくのか**を、**総合的・体系的にまとめたもの**

➤市の子育てや介護、医療福祉、環境、都市整備、観光振興など**全ての計画の基本**となるもの



# 総合計画の構成

基本構想、基本計画及び実施計画で構成されています



## 【基本構想】

将来のまちのあるべき姿や今後のまちづくりのあり方などを描いたもの

## 【基本計画】

基本構想を実現するために、10年間を単位とした具体的なまちづくりの方向性などを示したもの

## 【実施計画】

基本計画を3年間等に区切り、基本計画を進めるために必要な事務事業を示したもの



## 登別中学校区のまちの特色

- ①登別観光の玄関口として、まちの第一印象を決める重要な地域(JR登別駅、都市間高速バス停留所、登別東インターチェンジ)
- ②日本を代表する温泉地(登別温泉・カルルス温泉)
- ③登別観光の人気スポットとして、テーマパーク(登別マリパークニクス、登別伊達時代村、のぼりべつクマ牧場)の集積
- ④知里幸恵 銀のしずく記念館や(仮称)登別市情報発信拠点施設「ヌプル」を中心としたアイヌ文化の発信 など、

他の地域にはない観光を中心とした特色がある。





# 登別中学校区で進めている「まちづくり」に関する事業

- ①(仮称)登別市情報発信拠点施設「ヌプル」の整備(令和5年3月供用開始予定)
- ②JR登別駅 エレベーター等の設置(令和8年度供用開始予定)
- ③JR登別駅 駅前広場の整備(令和8年度供用開始予定)
- ④JR登別駅 駅舎の増築(令和8年度供用開始予定)
- ⑤JR登別駅周辺地区バリアフリー基本構想の策定(令和4年度策定予定)
- ⑥婦人センター敷地の民間活用に向けたサウンディング調査(令和4年度予定)
- ⑦消防団登別分団の車庫及び詰所の設置(令和8年度設置予定)
- ⑧登別温泉でのグリーンスローモビリティの本格導入(令和4年度導入予定)
- ⑨カルルス温泉を拠点とした企業型ワーケーションの実施(令和4年度予定)など、  
観光を中心としたまちづくりを推進



# まちづくりの主体となる登別市の人口

## 第1章 人口ビジョン

### 2. 人口の現状分析

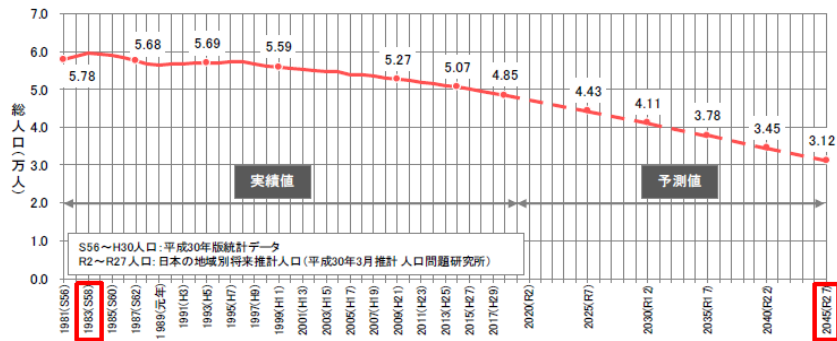
#### (1) 人口の推移

##### ① 総人口の推移

当市の人口は、工業都市室蘭市の人口増加とともに増加し続けてきましたが、昭和58年（1983年）をピークに年々減少しており、平成7年（1995年）頃わずかに増加したものの、以降は減少が続いています。

今後、人口は減少し続けると予測されており、令和27年（2045年）には31,170人となり、昭和58年時点の半数程度にまで減少するとされています。

登別市の総人口の推移と将来人口



令和27年の人口は、昭和58年の約半数(S58 5.78万人 → R27 3.12万人)  
生産年齢人口が老年人口を下回る

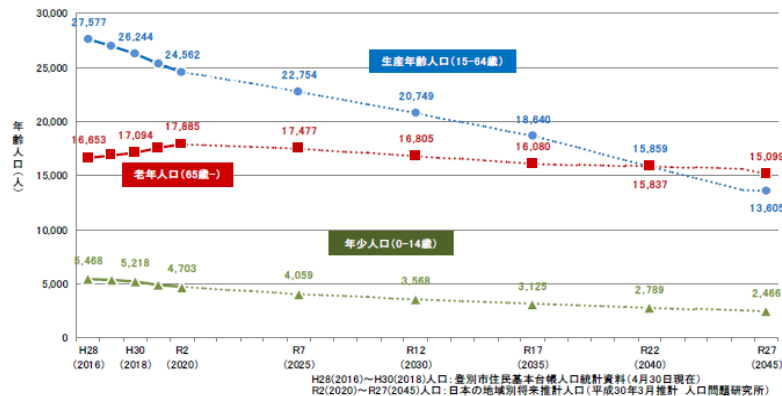
## 第1章 人口ビジョン

### ② 年齢別人口の推移

年齢3区分別の人口をみると、老年人口（65歳以上）が令和2年（2020年）までは増加するものの、年少人口（0-14歳）及び生産年齢人口（15-64歳）は減少が続くと予測されています。老年人口も令和3年以降は減少に転じると予測されています。

高齢化率（65歳以上）は、将来的にますます高まり、令和27年（2045年）には48.4%に達すると予測されています。

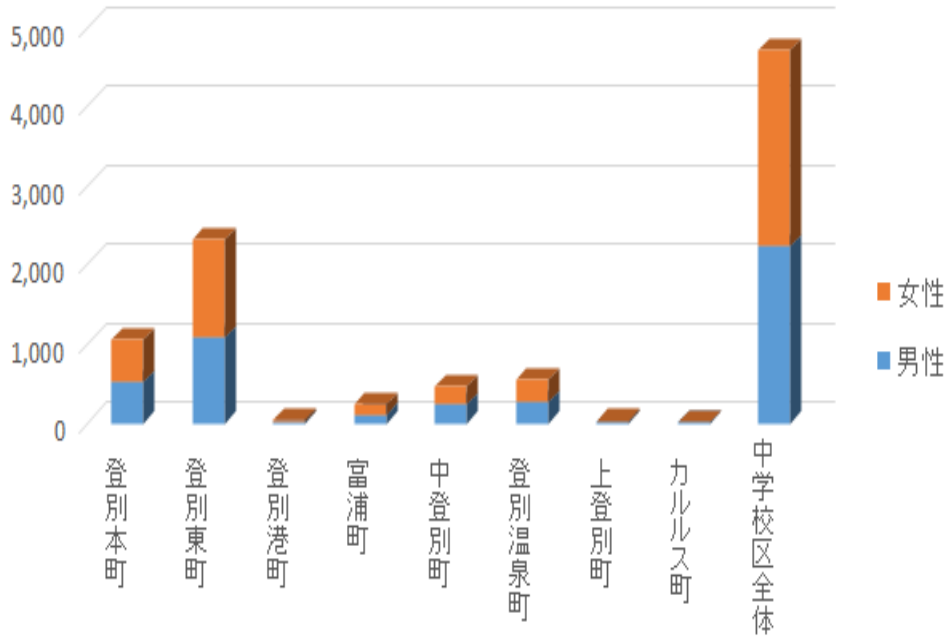
登別市の年齢別人口の推移と将来人口





# 登別中学校区の人口(令和4年3月31日現在)

登別中学校区の人口  
(令和4年3月31日)



## 男性

登別本町	登別東町	登別港町	富浦町	中登別町	登別温泉町	上登別町	カルルス町	合計
517	1,082	17	113	228	259	14	9	2,239

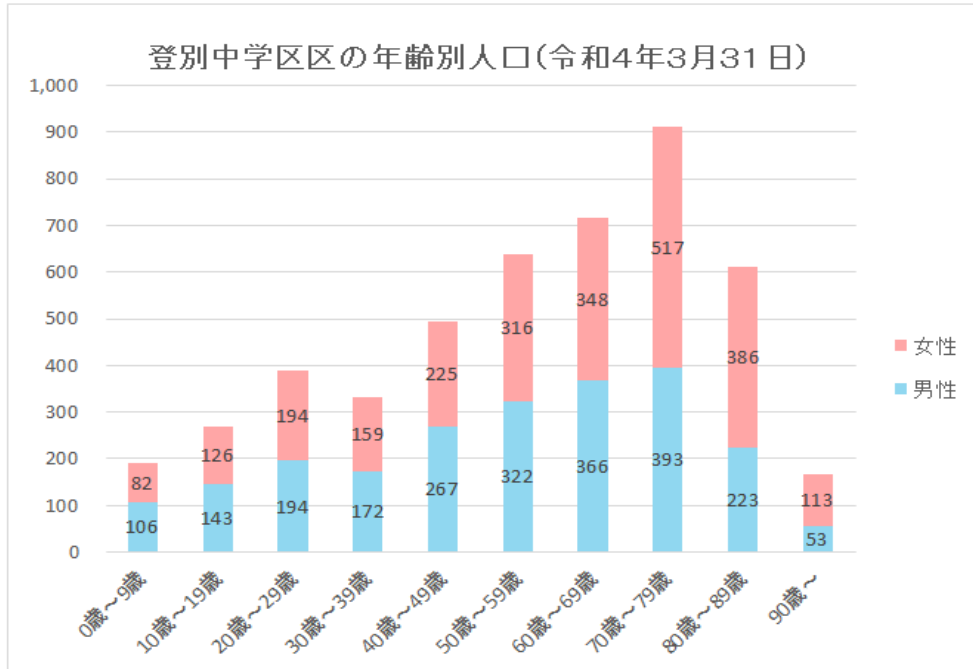
## 女性

登別本町	登別東町	登別港町	富浦町	中登別町	登別温泉町	上登別町	カルルス町	合計
537	1,229	20	131	230	291	13	15	2,466

## 合計

登別本町	登別東町	登別港町	富浦町	中登別町	登別温泉町	上登別町	カルルス町	合計
1,054	2,311	37	244	458	550	27	24	4,705

# 登別中学校区の年齢別人口(令和4年3月31日現在)



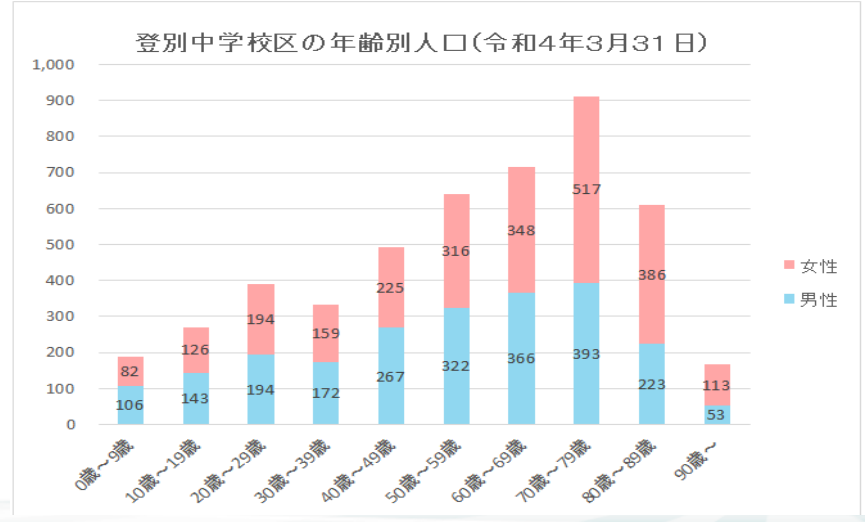
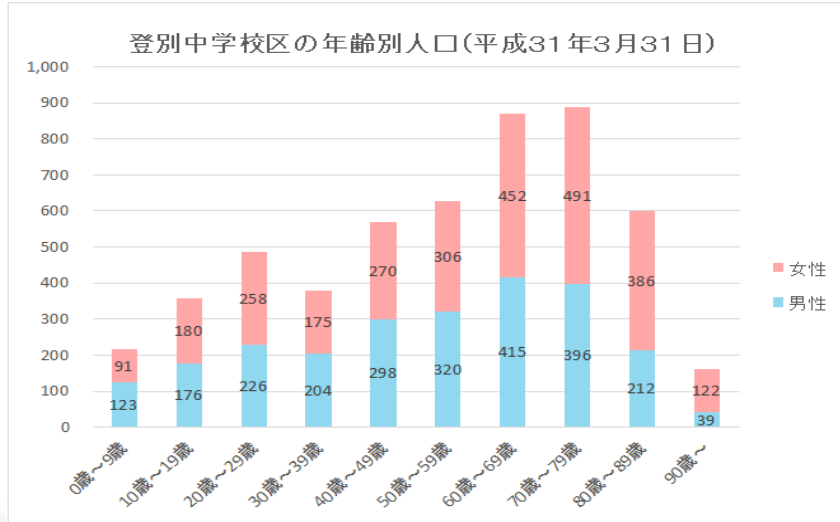
区分	男性	女性	計
0歳～9歳	106	82	188
10歳～19歳	143	126	269
20歳～29歳	194	194	388
30歳～39歳	172	159	331
40歳～49歳	267	225	492
50歳～59歳	322	316	638
60歳～69歳	366	348	714
70歳～79歳	393	517	910
80歳～89歳	223	386	609
90歳～	53	113	166
計	2,239	2,466	4,705
65歳以上	865	1,201	2,066
高齢化率			43.9%

登別中学校区の人口における高齢化率(43.9%)は、市全体の高齢化率(37.6%)を大幅に上回っている。

# 登別中学校区の年齢別人口の推移(令和元年と令和4年の比較)

## 【登別中学校区における近年の年齢別人口の状況】

- 人口:0歳～9歳 214人⇒188人、10歳～19歳 356人⇒269人、20歳～29歳 484人⇒388人、30歳～39歳 379人⇒ 331人、40歳～49歳 568人⇒492人、50歳～59歳 626人⇒638人、60歳～69歳 867人⇒714人、70歳～79歳 887人⇒910人、80歳～89歳 598人⇒609人、90歳以上 161人⇒166人、**合計5,140人⇒4,705人(-435人)**
- 高齢化率(65歳以上の割合):42.0%⇒43.9%(+1.9%)**



登別中学校区の人口は、令和元年と比べ3年で435人(約8.5%)減少し、高齢化率(65歳以上の割合)は、43.9%で1.9%増加。市全体と比べ人口減少割合の上昇スピードが早い。

# 登別中学校区の児童・生徒数の今後の変化

区分	登別本町			登別東町			登別港町			富浦町			中登別町			登別温泉町			上登別町			カルルス町			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0歳	1	0	1	4	2	6	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6	4	10
1歳	2	2	4	7	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	10	3	13
2歳	1	1	2	4	6	10	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	7	8	15
3歳	2	0	2	4	7	11	0	0	0	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	16
4歳	3	3	6	7	6	13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	10	11	21
5歳	1	1	2	7	9	16	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	11	10	21
6歳	2	3	5	6	8	14	0	0	0	1	0	1	0	1	1	1	3	4	1	0	1	0	0	0	11	15	26
7歳	2	0	2	8	4	12	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	11	5	16
8歳	4	4	8	7	4	11	0	0	0	1	0	1	1	0	1	3	1	4	0	0	0	0	0	0	16	9	25
9歳	4	3	7	10	5	15	0	0	0	2	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	9	25
10歳	2	3	5	6	1	7	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	12	4	16
11歳	0	2	2	3	5	8	0	0	0	2	0	2	1	1	2	1	0	1	0	0	0	0	1	1	7	9	16
12歳	3	6	9	6	3	9	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	12	10	22
13歳	6	6	12	6	2	8	0	1	1	1	0	1	0	0	0	2	3	5	0	0	0	1	0	1	16	12	28
14歳	6	4	10	7	8	15	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	13	27
15歳	3	5	8	12	9	21	0	1	1	0	1	1	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	20	16	36

■令和3年度末現在

区分	男	女	計
中学1年生	14	10	24
中学2年生	13	11	24
中学3年生	19	14	33
計	46	35	81

5年後

■令和8年度推計

区分	男	女	計
中学1年生	16	9	25
中学2年生	16	9	25
中学3年生	12	4	16
計	44	22	66

10年後

■令和13年度推計

区分	男	女	計
中学1年生	8	8	16
中学2年生	10	11	21
中学3年生	11	10	21
計	29	29	58

登別中学校の生徒数は、令和3年度と比べ5年後に19%減少し、10年後には28%減少とするものと推計。(実際には、登別明日中等教育学校などへ通学する生徒がいるため、さらに減少の見込み。)平成23年度生まれ(現在の小学5年生)は、女子が4名で男女別で3倍の差となる見込み。



## 登別中学校が「まちづくり」にどう関わってきたのか

登別地獄まつりへの参加  
(鬼みこし・熊舞)

登別駅前での熊舞披露  
(四季島)

主にイベント等に  
積極的に参加し、  
郷土芸能等を通じた  
郷土愛の醸成やイベ  
ントの盛り上げに  
貢献

「わくわく広場のぼりべつ」  
での吹奏楽部による演奏

「Be Smile 鬼花火」での  
熊舞披露

# 登別中学校統合時における「まちづくり」への影響

## ◎登別中学校特有の影響等

### ■郷土芸能「熊舞」の伝承

統合校に引き継がれるのか・・・  
郷土愛が薄れていくのでは・・・  
イベント等での盛り上がり欠けるのでは・・・

### ■「登別地獄まつり」への参画

引き継ぎ先(地域or統合校)での参加は可能・・・  
参加しない場合は、市内最大のお祭り「登別地獄まつり」として盛り上がり欠けるのでは・・・  
地域の子ども達が登別温泉・カルルス温泉への愛着が薄れていくのでは・・・

### ■「わくわく広場のぼりべつ」への参画

地域イベント(地域の人々)と地域の子ども達との繋がりが薄れていくのでは・・・

■熊舞及び鬼みこしについては、地域での継承又は統合校への引継を検討？

■地域イベントでの学校(部活動含む)への参加呼びかけなど、関わりを検討？

# 登別中学校統合時における「まちづくり」への影響

## ◎学校統廃合における「まちづくり」への一般的な懸念等

### ■地域の衰退

登別中学校の近隣から子育て世帯が減っていくのではないか・・・

登別中学校区における新築や転入が減るのではないか・・・

子ども達やその保護者(若い世代)が少なくなり、まちの活力がなくなっていくのでは・・・

### ■地域コミュニティの希薄

地域コミュニティの中核となる登別中学校がなくなること  
で、地域内における世代間のコミュニティが希薄となるでは・・・

■地域の強み「観光」を活かした産業の振興による地域活性化？

■新たな施設を活用した地域コミュニティの強化？

## 登別中学校統合に関する市の考え方

学校の統廃合においては、行政と地域住民、地域住民同士に亀裂を生む事態となることもある。

このような事態を回避するためには、行政や学校、保護者、地域住民などの関係者が、子どもの教育環境を第一に考えながら、「まちづくり」への影響も含めて協議を重ねていくことが重要と考える。

登別中学校の今後のあり方や統合の是非に関する検討体制（保護者や地域住民等で構成）

地区別  
検討委員会

- 教育環境部会
- まちづくり部会